

壁右書

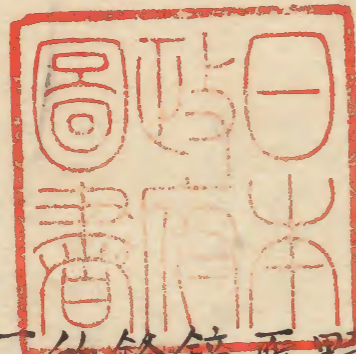
和書門			
一	四	五	九
冊	架	函	號
七	三	三	一

內閣文庫			
五	一	七	和
四	四	四	書
一	七	九	類
架	冊	號	

內閣文庫			
番號	和	17459	
冊數	7 (2)		
函號	154	211	



座右書卷第二



目錄

征矢

野矢

雁侯

鏞矢

鋒矢

的矢

一子四目

四目

一子神頭

神頭

一子矢

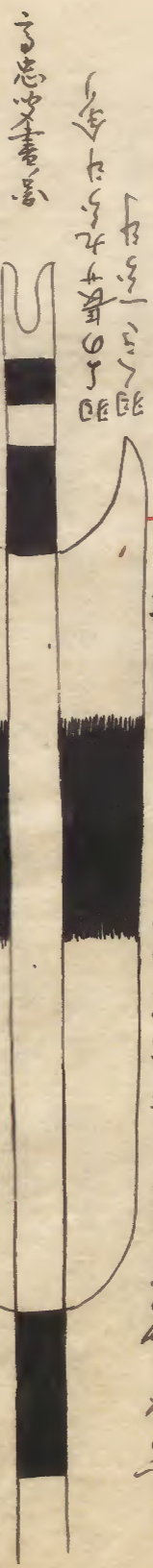
犬射引目

笠引目

花迺家文庫

淺草文庫

さびりたるもさびらざるはたれめざる巻馬の道なるべし内を回れ御の
事ありいとさびしき人へさうさうなるべし一々の巻二ふせ御の巻一ふせ
と云ふ一又云御の巻御の切符中思を御何をも馬を御の羽を付
へ地きり御の羽を付するものたるは御の御有り又云根ハ九根
御のさびりあるべし馬をさびりあるべし馬をさびり御の大小馬より又
人のさびりあるべし



是れ御矢又うつら御のさびりなるべし昔の御矢もさす巻ハ二合
うらふ合し御の巻ハ一寸二分次巻くよ一をいれよと云ふさびりを
はけず巻くよをいれよと云ふさびりをさす巻くよと云ふこれハ御の御のさびり
あるべし御の巻くよと云ふさびりをさす巻くよと云ふさびりをさす巻くよと云ふ
御矢又うつら御のさびりなるべし昔の御矢もさす巻ハ二合
うらふ合し御の巻ハ一寸二分次巻くよ一をいれよと云ふさびりを
はけず巻くよをいれよと云ふさびりをさす巻くよと云ふこれハ御の御のさびり
あるべし御の巻くよと云ふさびりをさす巻くよと云ふさびりをさす巻くよと云ふ

- 一 内どり矢ニツマミ
- 一 射手方御書云ひしや 貞文云貞征矢トハ乃かハハらぶざれゆくよさす
のさびり 乃かハハらぶざれゆくよさす
- 一 又云ひしやと云ふもさびりなるべし 貞文云是ハ御矢の用ハ方ノ御の
用ハ方ノ御の
- 一 又云御矢と云ふハ一人御別御射手なるべし 貞文云是ハ御矢の用ハ方ノ御の
用ハ方ノ御の
- 一 又云御矢と云ふハ一人御別御射手なるべし 貞文云是ハ御矢の用ハ方ノ御の
用ハ方ノ御の
- 一 又云御矢と云ふハ一人御別御射手なるべし 貞文云是ハ御矢の用ハ方ノ御の
用ハ方ノ御の
- 一 又云御矢と云ふハ一人御別御射手なるべし 貞文云是ハ御矢の用ハ方ノ御の
用ハ方ノ御の
- 一 又云御矢と云ふハ一人御別御射手なるべし 貞文云是ハ御矢の用ハ方ノ御の
用ハ方ノ御の

一 書札并新く史書云征矢より海へはくぬおひさやの...
一 又云十六矢より走り矢をさるぬくせみ矢の射にさすこせみの目を二矢の
けくとり矢をさる流てさる...
一 弓法私書云征矢は矢竹ハズ半箭ハズ節をぬく節にあつ通りの節をさるへ
用へおつとり矢にわらびの下りくろ木下へ羽は真を羽又ハ小毛羽をも
射征ハ切竹大申思ふを射ハ羽の射にわらびの
目をさるへひけて走り羽を射ハ矢ハ箭をぬけて苦ハよさずわらびの
流はさるへさるへさるへ
一 弓法秘傳圖書云征矢を用ひは曉よりさすは羽のくろ木を曉よりさす根の方
上へあり
一 書札并新く史書云征矢より海へはくぬおひさやの...
考の...
和名抄ニ鏃ノ字ヲ矢サキト訓ヲ付テ俗ニ矢ニリト云フトアリ矢サキト云ハ本名ニテ矢シ
リト云ハ俗名也サレバケンガキハ本名ニテケンシリト云ハ俗名ナリ

○

一 野矢 忌中記云野矢と云ハ白篋乃征矢の半ニ他流也

貞丈云野矢とは 矢竹の半なり

寛正記云野矢の根ハ丸根あり

丸根ニ村ニハ鏡キナリト云ハ本名ニテケンシリト云ハ俗名ナリ

一 又云野矢ハ根巻をゆく也麻のころりの糸也依々麻巻と云

野矢の羽ハ...
昔ヨリハ根多巻

一 又云うつね矢ハ白篋本式より勿効野矢是也

又云方羽の射ハ...
二四列ノ野矢ハ征矢ニ推スル

一 又云矢羽の射ハ...
竹

一 又云矢羽の射ハ...
矢竹

一 又云矢羽の射ハ...
矢竹

一 又云矢羽の射ハ...
矢竹

一 又云矢羽の射ハ...
矢竹

一 又云矢羽の射ハ...
矢竹

一 又云矢羽の射ハ...
矢竹

一 又云矢羽の射ハ...
矢竹

一 又云矢羽の射ハ...
矢竹

一 又云矢羽の射ハ...
矢竹

野矢

一 又云将場は塗篋如くしむと抄手法にありす 伊調度といへども
 白篋を用ひし 貞丈云野矢ハ
 白篋ナリ

〇 一 くりまゝに巻中記をうりまゝに常より人の一巻に二巻いかにする事あり
 一 ツニツニと

一 又云すくり幅のちりちりも常より幅のちりちり也又うりまゝに此抄は射り幅の
 ちりちり成る事あり 貞丈云常のりりまゝのりりちりちりありては
 高忠云常のりりまゝのりりちりちりありては

一 高忠圖書云かりまゝのりりちりちりも常より幅のちりちり也又うりまゝに此抄は射り幅の
 ちりちり成る事あり 貞丈云常のりりまゝのりりちりちりありては
 高忠云常のりりまゝのりりちりちりありては

雁股

一 又云すくり幅のちりちりも常より幅のちりちり也又うりまゝに此抄は射り幅の
 ちりちり成る事あり 貞丈云常のりりまゝのりりちりちりありては
 高忠云常のりりまゝのりりちりちりありては

肝魂も尾へつけしかゝりて耳二のあしをそひて二の矢より射りし
を以て概乃生尾を射切るるあど後射もくく

又云かきまいたそむむらひけをふせを射射射より射りしけん
と後射もくくしけん射もくくを射りしけん射射より射りしけん

の方を射りしけん射射より射りしけん射射より射りしけん
矢を以て射りしけん射射より射りしけん射射より射りしけん

又云征矢より射りしけん射射より射りしけん射射より射りしけん
又云征矢より射りしけん射射より射りしけん射射より射りしけん

又云征矢より射りしけん射射より射りしけん射射より射りしけん
又云征矢より射りしけん射射より射りしけん射射より射りしけん

又云征矢より射りしけん射射より射りしけん射射より射りしけん
又云征矢より射りしけん射射より射りしけん射射より射りしけん

又云征矢より射りしけん射射より射りしけん射射より射りしけん
又云征矢より射りしけん射射より射りしけん射射より射りしけん

○真丈云上の後射羽と下射羽と云下の後射羽と下射羽と云内の小羽は下の
小羽と云外の小羽と云はた矢羽の部ニモナリ

又云征矢より射りしけん射射より射りしけん射射より射りしけん
又云征矢より射りしけん射射より射りしけん射射より射りしけん

又云征矢より射りしけん射射より射りしけん射射より射りしけん
又云征矢より射りしけん射射より射りしけん射射より射りしけん

又云征矢より射りしけん射射より射りしけん射射より射りしけん
又云征矢より射りしけん射射より射りしけん射射より射りしけん

又云征矢より射りしけん射射より射りしけん射射より射りしけん
又云征矢より射りしけん射射より射りしけん射射より射りしけん

又云征矢より射りしけん射射より射りしけん射射より射りしけん
又云征矢より射りしけん射射より射りしけん射射より射りしけん

又云征矢より射りしけん射射より射りしけん射射より射りしけん
又云征矢より射りしけん射射より射りしけん射射より射りしけん

又云征矢より射りしけん射射より射りしけん射射より射りしけん
又云征矢より射りしけん射射より射りしけん射射より射りしけん

又云征矢より射りしけん射射より射りしけん射射より射りしけん
又云征矢より射りしけん射射より射りしけん射射より射りしけん

又云征矢より射りしけん射射より射りしけん射射より射りしけん
又云征矢より射りしけん射射より射りしけん射射より射りしけん

ひふにたてては秘密の行儀をせしむる事なり矢にあらはるる事は行儀を
 一又云くしるゝがれ小羽の羽をさすに羽をさすにびてしうくさるる事
 切らぬ事ある事なり

一又云くしるゝの羽をさすに羽をさすにびてしうくさるる事

一羽書を同用抄する事なり

一法量相異なる事なり

一矢射るに味をさす事なり

一弓馬加えても世にありし事なり

一射は方角書をかりし事なり

一の尾とある事なり

一の尾とある事なり

一又云くしるゝの羽をさすに羽をさすにびてしうくさるる事

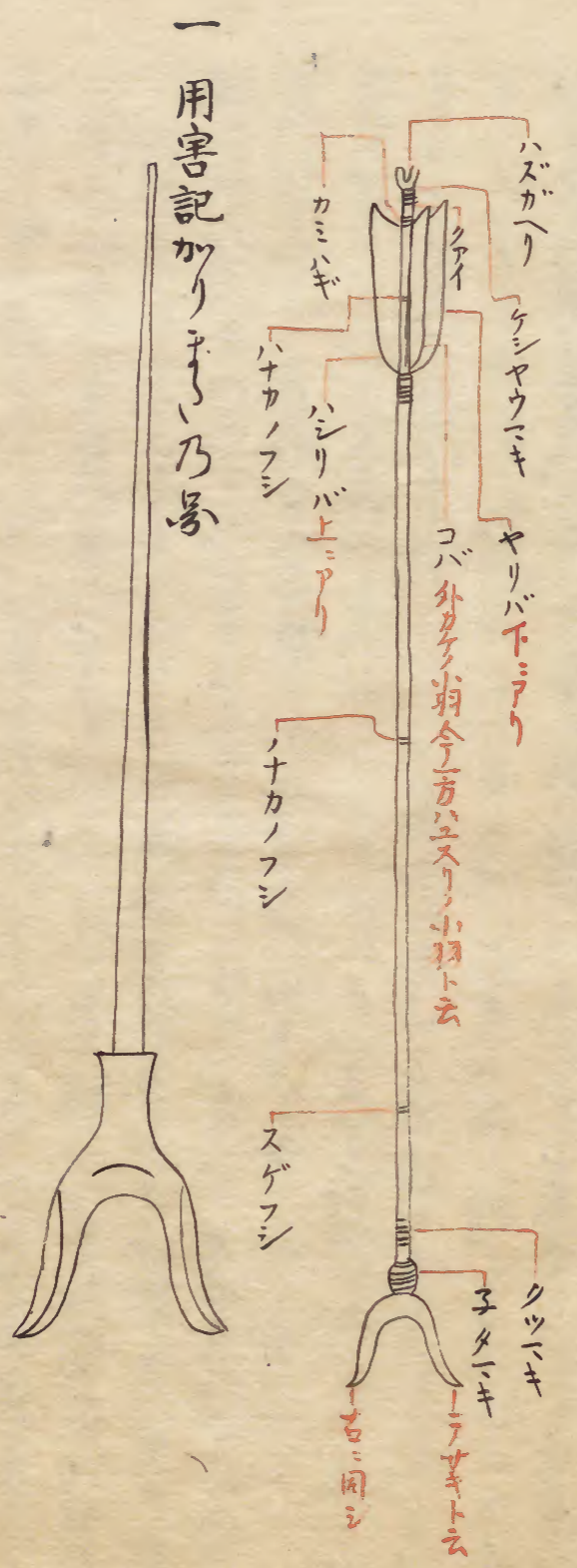
一又云くしるゝの羽をさすに羽をさすにびてしうくさるる事

一又云くしるゝの羽をさすに羽をさすにびてしうくさるる事

一又云くしるゝの羽をさすに羽をさすにびてしうくさるる事

二乃矢射たるは矢多しりてしうくさるる事

一弓矢名所記將候乃各羽の事
貞丈云カリミタノ羽
四ツタテナリ



射所拾遺抄云くは長サ之を世目言ぬるありて一やこれ本
 目と云ふありしは是ハやうな神の此時用之又目二目ありて一
 羽はま羽或は宿るれんは之也中の羽は維の川尾山等の虎を云一白虎也
 一ハ捕虎中ありて一略候しよりまゝの同家又虎の羽を云はりあり
 一はまをこれり根中よりハ八目を後二目申しとすぬるありて一のどひ
 虎の射のりて又云ふれりありてをて申すにぬる神代よりて種々の
 一は隆るり言載る及細々今の世の矢は征矢を以て申す

一 射所持長記云くは長サ之を世目言ぬるありて一又五目之めとある
 一ハ杯のありてもくは年ありて是ハ流編る神年の用也根本八目を後
 二目申也虎ハ白虎箭ハす多ぬるをて申す羽はまを羽翹の羽はま
 ありて中の羽はま一ハ尾山をれ尾を云一ハ虎のどひ虎箭ありて
 一はま也我々はま二ふせ斗長くしてをてをてをてをてをてをて
 一はます是矢つるをてをてをて

一 是を記云くはまをてをてをてをてをてをてをてをてをてをてをて
 一はまをてをてをてをてをてをてをてをてをてをてをてをてをて

箭矢

又云くはまをてをてをてをてをてをてをてをてをてをてをてをて

一 射所拾遺抄を矢はる巻ぬるのゆゑに矢はるを身にあひきけり二あせ
長くしてそれとを巻ぬる所あてもなくも巻てうしをすすこれを
矢はる巻とていふなり

一 高志聞書云かゝる矢のこゝろに木の事しきやうに記してあるは二と
ア羽の羽をうへ一少羽ふきの羽尾の少羽をも同く羽の羽乃かす
まてとす一少羽をもまて羽中まてとすも南流まてのまて
かゝる一の羽を肉ひさかすは二つともまてゆずりもくろく羽
ひきをす用ひさかすに陽の二の羽の内ひき一は糸向く一又
二一の矢も何もしるも羽内ひきある少羽も内ひき一も
走羽ひきさく一少羽もひきさく又矢の内のひき一もずはひさ
くは矢の他矢の羽式よりさる也 矢のひきさくは矢のひきさく
かゝるすはひさく一又矢のひきさくは矢のひきさくは矢の
まてとす一又矢のひさく一少羽中をまて一はひきさくは矢の
羽中二あせがや一羽中乃ゆひきさくは矢の他羽中のひきさく
をひきさくはひきさく一又矢のひきさくは矢のひきさくは
例或の秋矢はるより二あせとて矢はる巻とていふもあて巻て

赤うらゝのぬきまてく廣さこから一と二あせまて矢つ如き
はるまてくはるまてくはるまてくはるまてくはるまてくはるま
らのまてくはるまてくはるまてくはるまてくはるまてくはるま
かゝるまてくはるまてくはるまてくはるまてくはるまてくはるま
ゆゑにまてくはるまてくはるまてくはるまてくはるまてくはるま
つとまてくはるまてくはるまてくはるまてくはるまてくはるま
ちりひかゝるまてくはるまてくはるまてくはるまてくはるまて
矢のまてくはるまてくはるまてくはるまてくはるまてくはるま
安く射へきたり若し二あせまてくはるまてくはるまてくはるま
かゝるまてくはるまてくはるまてくはるまてくはるまてくはるま
のまてくはるまてくはるまてくはるまてくはるまてくはるま
之まてくはるまてくはるまてくはるまてくはるまてくはるま
羽はまてくはるまてくはるまてくはるまてくはるまてくはるま
これ羽の羽の羽の羽の羽の羽の羽の羽の羽の羽の羽の羽の羽の羽
月二目し麻の角すく作りて三方はゆきを強す一は矢の南流の
あて矢の根布八目を後五目四目二目より一より二目目二目目
布すすはるまてくはるまてくはるまてくはるまてくはるまて

用也 カマラニサ又カマラニニナリ 又云かまらさの寸法いうやどハカマラナリ又云うがく矢の半
あまらくす

一 圖的圖書云上矢に二すドあるをいひ内ひきあり

一 意圖書別記云尚流は二編をなす半あり作 貞丈云あこい矢童
と書古代の書は
ふことあるは流にあらぬあひのふあり今世はこいあひあり今世はこいあひあり

一 弓馬故実云矢は二巻と云事加う矢は限る半之別の矢はあはれ半にうが
りそすの方一かのかけてきくを矢は限る半にうが

一 射方圖書云かまら矢うり幅は二白鹿也 貞丈云矢つ加まら矢のふた
は書かまら矢うり

一 上賢折云くまら矢うり幅は二白鹿也 貞丈云矢つ加まら矢のふた
は書かまら矢うり

一 羽小羽はやまの尾 羽小羽は上ハキヨリ上ハヒキ出ルカラム 上をきめ此をけりくび
云之又やいげをとりてもすは略候と云事羽は雛の引尾を小羽よりすは白鹿

一 如くうの長サ三を目ハ昔ハ五也 貞丈云はかこい矢のふた
は書かまら矢うり 今ハ目二こくうの鹿乃
角は肩はぬいをのこすは又ひのきもすは是ハ神事やぶるの

一 又云小笠原傳云友はゆりからう矢ハ神のあをいりる矢也 貞丈云はかこい矢のふた
は書かまら矢うり 神のあをいりる矢也

一 我矢つくる二をせくして射る候なり 貞丈云はかこい矢のふた
は書かまら矢うり

一 又云尚流は二編をなす半あり 貞丈云はかこい矢のふた
は書かまら矢うり

一 矢は二編をなす半あり 貞丈云はかこい矢のふた
は書かまら矢うり

一 矢は二編をなす半あり 貞丈云はかこい矢のふた
は書かまら矢うり

一 矢は二編をなす半あり 貞丈云はかこい矢のふた
は書かまら矢うり

一 矢は二編をなす半あり 貞丈云はかこい矢のふた
は書かまら矢うり

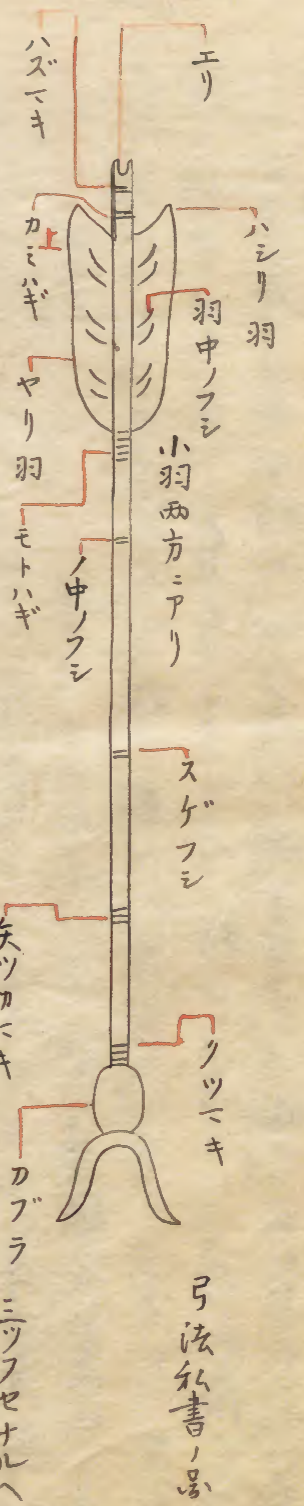
一 矢は二編をなす半あり 貞丈云はかこい矢のふた
は書かまら矢うり

一 矢は二編をなす半あり 貞丈云はかこい矢のふた
は書かまら矢うり

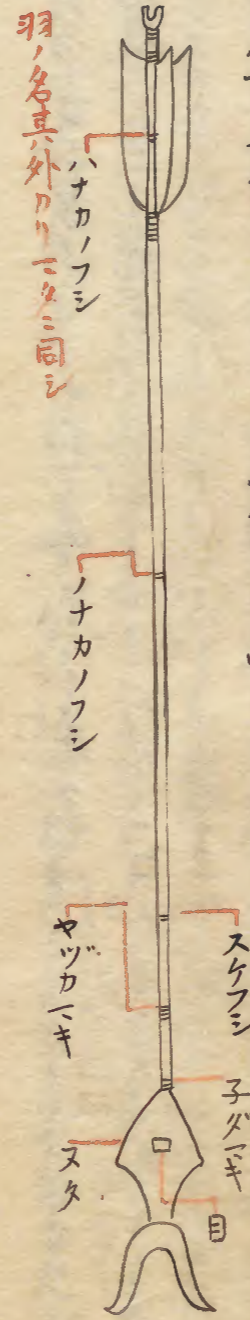
一 矢は二編をなす半あり 貞丈云はかこい矢のふた
は書かまら矢うり

一 矢は二編をなす半あり 貞丈云はかこい矢のふた
は書かまら矢うり

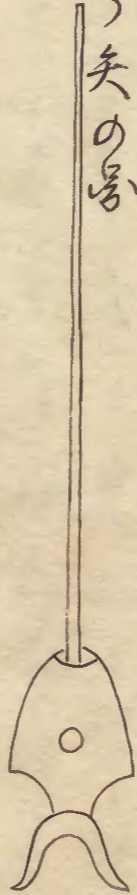
射へはつきあふる一をけりしむもかみれこし之回花



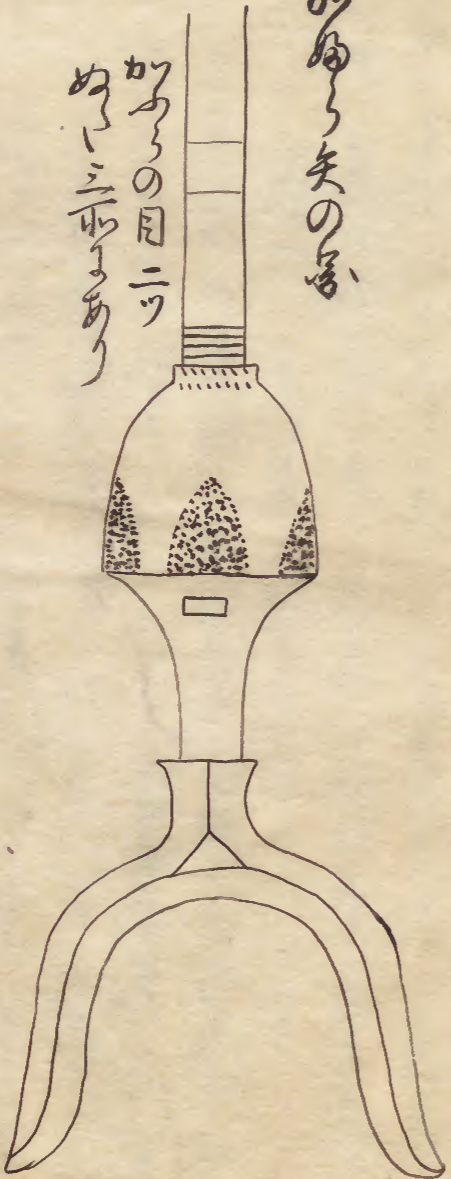
- 一 又云かめはれ羽の名は半走り羽（とがけゆずり）常れゆ走り羽の下を通り
- 一 射るる羽をやり羽（造）と云ふ（引）羽中の箭の目の上より走りゆくは
- 一 射るる回花想ふハビつきよ山の引尾まで射る羽をせ小羽と云ふ
- 一 立の射ハ羽の名一つ多きあり
- 一 射る方圓書かめはれ羽のわたりありしこのわりのわり他は羽を羽中とて
- 一 射る方圓書いけりもろは羽のごとし（負丈云小羽を羽中ニテとがけゆはハ小羽系ニ遊ス他流也）
- 一 弓矢名取之記よりまじ各所乃家（古流波書ハ小羽をよめんとすナミ）



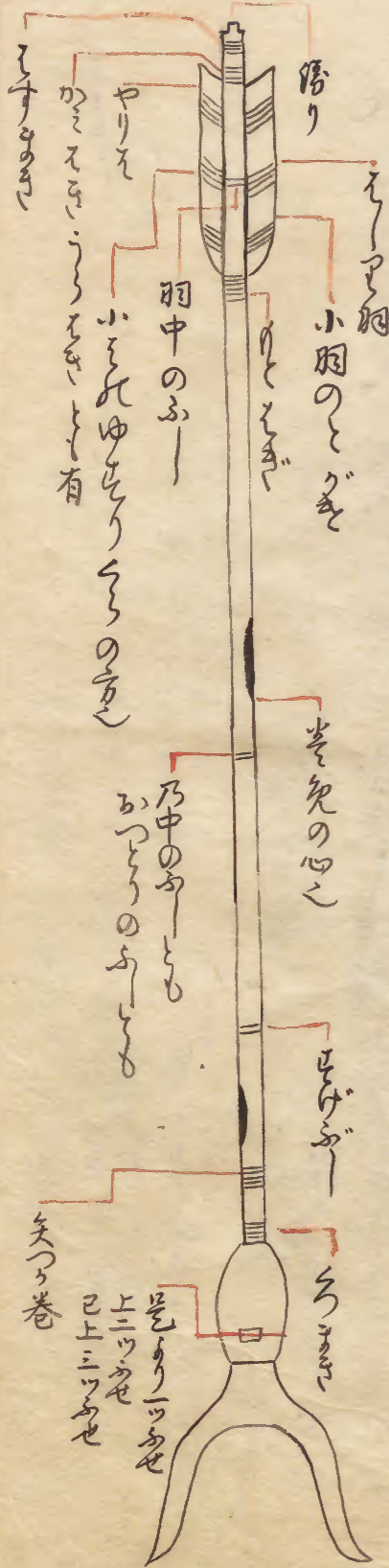
一用害記より矢の事



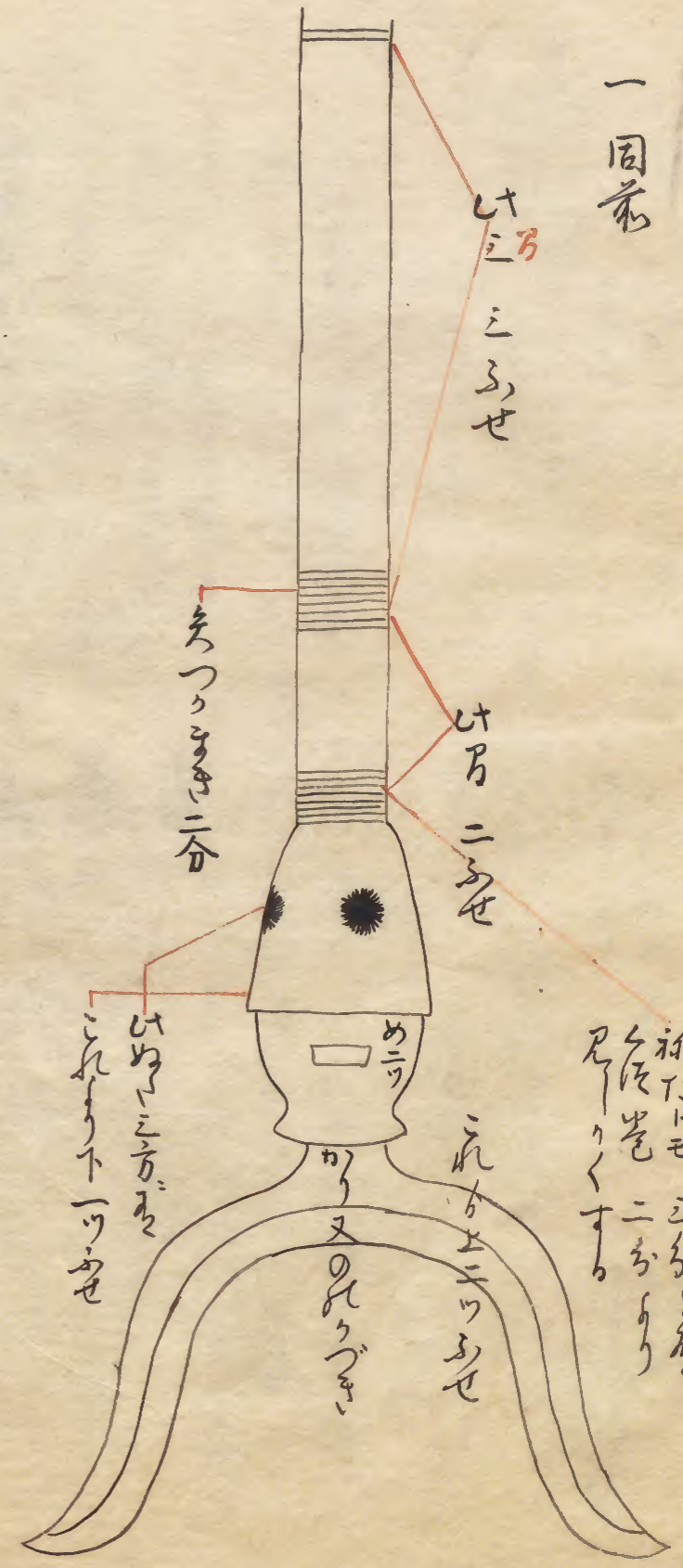
一物類記かめはれ矢の家



一弓馬三冊かめはれ矢の家



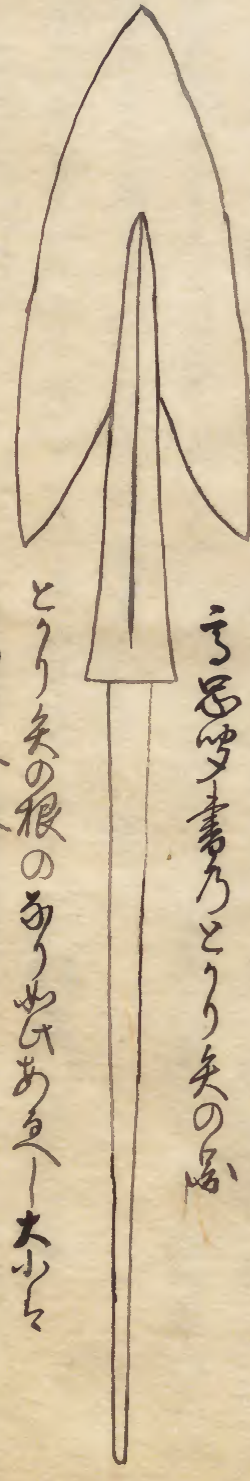
一 図前



折たトモ 二分とろ
なほ 巻ニかきり
見りくす

○ 一とぐりや 墨印記云とぐり矢とヤハ目くらうと 例も根の手に 程は倍法

一 志田書云とろ矢乃 幸お けをぬく げすいよさすふと
 のりとりをすすへい 一は 笥より 不常佐あたり びげふ 笥
 中のでーこれ 笥不 拵あたる たるー 社たをふり 象あ
 たる 赤うりー 一ぬく 一これま 何の 他さより 半あより 一さ
 こを せやーい 一は 一相を 習習と 小羽を 小の 門尻を 通し 小羽を
 うは ぎとま 一とす 一羽中 一とむる 一高流より あり 半あり
 とろ 矢に 一目の 物也 羽の 的矢のこと 一し ちむき 一又 一
 一の あり 一何と 田向の中 人あり なる 一は ちむき 一又 一
 一は あり 一も あり 一あり 一と 人 一も 高流より 一は あり 一は
 又と とうり 矢とろ 一は 一は あり 一紙より 一と 一と 一と 一と



志田書云とろ矢の
 とろ矢の 根の あり あり あり あり
 の 矢は 人の あり あり

とうり矢

- 一 志園書別記云とがり矢も四ツ五ツ一穂の羽あてとてよき羽也とて
- 一 射の方面書云とがり矢のうへはもろくあてとてしほはありと云
- 一 又云とがり矢もはけせし物の射を射るに中
- 一 上賢抄云とがり矢の射あてりれとて中は矢の尾より同半とて記
やいほとて羽射の羽とてし小羽は心をもひき尾を射小羽ともうと
てとてとてす
- 一 又云とがり矢は一本の物と羽ハハ外向ハ内むきとて
- 一 又云とがり矢はあびのあてとてすしほは尾あり
- 一 又云とがり矢は矢ハ羽た巻の巻始めをけし羽の目を射とすしとてしほは
き始もめとてすしほは同下とてすしほは羽とゆすりの羽の巻始め
又云とがり矢の射はその羽射の羽をも又さきも射をも射は射の羽と小
羽ハ山々の尾とてす
- 一 又云おひ矢の 貞丈云おひ矢ハおひ矢と
と云同也 とがり矢の羽の半二ありとてうらむとて
ひさし、肩書ニ長享元七月晦日
於進佐加賀者所ハゆ波也トアリ
- 一 弓法私書云とて此半 貞丈云多賀良高忠ハ侍詞記七五矢
乃是依ハ中サシナルニ書タカハ 是も節をぬりて若も若用
若も若下熱乃矢乃こりとと回前を射と 貞丈云熱の矢
ハ征矢を指ス 羽ハ初穂の羽と

竹(ニ)の口(一)ハ的矢のや、内むきむきを射て穂の羽を矢よ
射射ハひとあてを射とてしほはありと云 貞丈云
とてしほはひとあてを射とてしほはありと云
云ゆひとての矢ハひとあてを射とてしほはありと云
矢の半とてとがり矢とてを射とてしほはありと云 貞丈云
二寸み分形ハゆハ ↓ みのあはありとてしほはありと云

一 用害記とがり矢の形



一的矢 射内拾遺抄云の矢も如しけりゆらゆら

一 射内持長記云の矢乃半三箭篋也如しけりゆらゆら

一 武常祝也乃いひ篋お初めゆらゆらと云はれり

一 一々すすの如いひ云や花を羽のさきよりゆらゆら

一 是中記云の矢也ゆらゆらと云はれりゆらゆら

一 いせ阿波の如向ありてみるゝ雲を記の的矢を半と云はれり

一 又云越々矢の如ありて何れゆりも的矢をいぢりゆらゆら

一 高忠聞書云の矢のいしけりゆらゆらと云はれり

一 ゆらゆらと云はれり。羽中の如しゆらゆらと云はれり

一 ゆらゆらと云はれり。羽中の如しゆらゆらと云はれり

一 らいゆらゆらと云はれり。ゆらゆらと云はれり

一 略便の圖的也との如しゆらゆらと云はれり

一 と此の如しゆらゆらと云はれり。射するゆらゆら

一 不可ゆらゆら

一 圖的圖書云の矢也 **甲** 甲矢乙矢の事と云はれり

一 甲矢乙矢の事と云はれり。甲矢乙矢の事と云はれり

一 甲矢乙矢の事と云はれり。甲矢乙矢の事と云はれり

的矢

○ 一 一目射付持長記云一一目射付持長記云一一目射付持長記云一一目射付持長記云

長サ一寸五分斗之西より巻をて目之赤うじよぬき一一目射付持長記云一一目射付持長記云一一目射付持長記云

もくくくくくくすのくくくくくくすのくくくくくくすのくくくくくくすのくくくくくくすのくくくくくくすの

ひ莞もとと

一 一目射付持長記云一一目射付持長記云一一目射付持長記云一一目射付持長記云一一目射付持長記云一一目射付持長記云

一 一目射付持長記云一一目射付持長記云一一目射付持長記云一一目射付持長記云一一目射付持長記云一一目射付持長記云

一 一目射付持長記云一一目射付持長記云一一目射付持長記云一一目射付持長記云一一目射付持長記云一一目射付持長記云

一手四目

貞文云
此乃
貞文云
此乃

忠文書

一 高忠の志ありて羽中のありしを却てするに志ありしにすげをせしむること
まめのうはあぐさすことありしに... 志をもちて志ありしに... 羽中のうら... 羽中のう
とすげまいたと... 地を作て... 志をもちて... 志ありしに... 志ありしに... 志ありしに... 志ありしに...
又云ふら... 志ありしに... 志ありしに... 志ありしに... 志ありしに... 志ありしに... 志ありしに... 志ありしに...
一 志願書別記云... 志ありしに... 志ありしに... 志ありしに... 志ありしに... 志ありしに... 志ありしに... 志ありしに...
ハ... 志ありしに... 志ありしに... 志ありしに... 志ありしに... 志ありしに... 志ありしに... 志ありしに...

- 一 弓法私書云... 弓乃半加... 此仕振... 志ありしに... 志ありしに... 志ありしに... 志ありしに... 志ありしに... 志ありしに... 志ありしに...
一 羽も羽の... 志ありしに... 志ありしに... 志ありしに... 志ありしに... 志ありしに... 志ありしに... 志ありしに...
一 又云... 志ありしに... 志ありしに... 志ありしに... 志ありしに... 志ありしに... 志ありしに... 志ありしに...
一 志願書別記云... 志ありしに... 志ありしに... 志ありしに... 志ありしに... 志ありしに... 志ありしに... 志ありしに...

〇

- 一 四目 高忠願書云... 四目の寸ハ... 志ありしに... 志ありしに... 志ありしに... 志ありしに... 志ありしに... 志ありしに... 志ありしに...
一 又云... 志ありしに... 志ありしに... 志ありしに... 志ありしに... 志ありしに... 志ありしに... 志ありしに...
一 志願書別記云... 志ありしに... 志ありしに... 志ありしに... 志ありしに... 志ありしに... 志ありしに... 志ありしに...
一 扇後云... 志ありしに... 志ありしに... 志ありしに... 志ありしに... 志ありしに... 志ありしに... 志ありしに...
一 又云... 志ありしに... 志ありしに... 志ありしに... 志ありしに... 志ありしに... 志ありしに... 志ありしに...
一 上賢抄云... 志ありしに... 志ありしに... 志ありしに... 志ありしに... 志ありしに... 志ありしに... 志ありしに...

四目

射所拾遺抄云云

一 射所拾遺抄云云

一 射所拾遺抄云云

一 射所拾遺抄云云

一 射所拾遺抄云云

一 射所拾遺抄云云

一 射所拾遺抄云云

一 射所拾遺抄云云

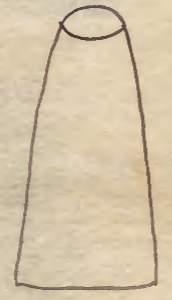
一 射所拾遺抄云云

一 射所拾遺抄云云

又云

- 一 一 形は... (text continues)
- 一 射子方... (text continues)
- 一 上賢抄云... (text continues)

- 一 又云... (text continues)
- 一 又云... (text continues)



一 一 形は... (text describing the drawing)

- 一 又云... (text continues)
- 一 又云... (text continues)
- 一 又云... (text continues)

是形... (text describing a circular shape)

先を切りたる柳より多し上を巻ておをうせて糸め見えぬ極うまうぬ
 耳をらう久きを多し夫の節ハ是も之節羽中を用之四節篋も昔
 々す四節篋ハ略使ハ一白矢既をそ矢筒に入きて扱ふこハ矢代
 中も一白まんを物と一白まんを一白冒中ハ節麻丸お扱お
 と歩立のおを射入るこ常の矢既も一白まんを一白矢既ハ是も
 勝ハ此考ハ矢代まんを射入るこ常の矢既も一白まんを一白矢既ハ
 一白矢既ハ是も射入るこ常の矢既も一白まんを一白矢既ハ是も
 一白矢既ハ是も射入るこ常の矢既も一白まんを一白矢既ハ是も

弓法私書
 一白まんを射入るこ

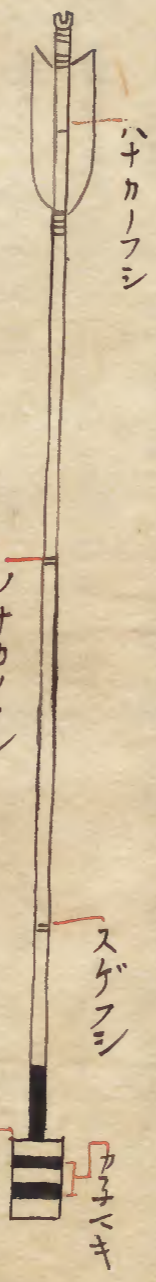


一白まんを射入るこ
 一白まんを射入るこ
 一白まんを射入るこ

弓馬三冊の巻も
 一白まんを射入るこ

一弓馬三冊云一白まんを射入るこ
 一白まんを射入るこ

一弓矢名取之記矢代矢既各取の巻
 矢代一白まんを射入るこ



自文云以只字誤
 ナルハ三ノ角ノ所ハ
 丸カノフシ

一用害記一白まんを射入るこ



一犬遊和聞書云稗良神どハ一白神を射入るこ
 一白のあしとる秘況の巻も一白神を射入るこ

一小的事云矢代ハ一白矢既の早矢と可用也但ハ或ハくのやあれとも
 常ハ只一白まんを物と一白まんを一白冒中ハ節麻丸お扱お
 一白まんを物と一白まんを一白冒中ハ節麻丸お扱お
 一白まんを物と一白まんを一白冒中ハ節麻丸お扱お
 一白まんを物と一白まんを一白冒中ハ節麻丸お扱お

大逆方陣書の象



一 又云此目は漆を色光りたれあるは日ろりしを宛みるがごとくしうろりし
 一 又云此目は漆を色光りたれあるは日ろりしを宛みるがごとくしうろりし
 一 又云此目は漆を色光りたれあるは日ろりしを宛みるがごとくしうろりし
 一 又云此目は漆を色光りたれあるは日ろりしを宛みるがごとくしうろりし

一 又云大射のりれ羽のそし振下たうりけり 頁又云左の象あり



一 又云大射のりれ羽のそし振下たうりけり 頁又云左の象あり
 一 又云大射のりれ羽のそし振下たうりけり 頁又云左の象あり
 一 又云大射のりれ羽のそし振下たうりけり 頁又云左の象あり
 一 又云大射のりれ羽のそし振下たうりけり 頁又云左の象あり

一 又云大射引目の目槍を白くあはせしむる
 又云白くあはせしむる又ひたきき又ひたきき又ひたきき又ひたきき
 あらして白くあはせして立つるものあり又引目の頭は菊の花を打つるものあり
 何れも奥に又赤ら色の引目真丈公衆に三葉あせし物なるは人好するものといはれざる
 事と云くはる事ハ近代の事也

一 又云大射引目いさのあはせしむるをいさと云くはる事ハ近代の事也
 又云いさをいさといはる事ありいさあり

一 又云公方様の引目いさあはせしむるをいさと云くはる事ハ近代の事也
 又云公方様の引目いさあはせしむるをいさと云くはる事ハ近代の事也

一 又云大射引目いさのあはせしむるをいさと云くはる事ハ近代の事也
 又云大射引目いさのあはせしむるをいさと云くはる事ハ近代の事也

一 又云大射引目いさのあはせしむるをいさと云くはる事ハ近代の事也
 又云大射引目いさのあはせしむるをいさと云くはる事ハ近代の事也

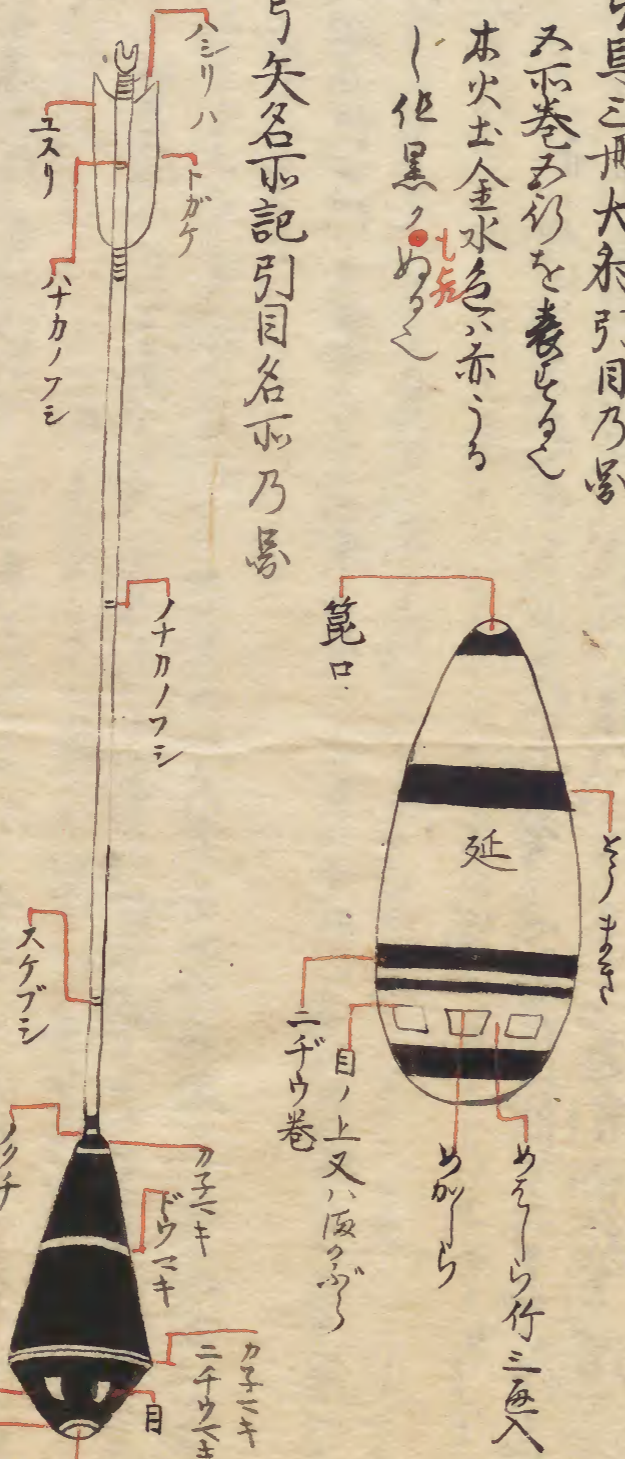
一 弓馬三冊本二然ら四目竹の口大いさと云くはる事ハ近代の事也
 竹根引目真丈云はる竹根引目也犬射引目也
 アラスい神ニセニキ物ナレドモ外ニ
 祀スベキ所ナキニハカリニは部ニ書キ入
 ヲク也犬射引目也ト思フベカラズ



一 弓馬三冊犬射引目乃馬

六雨卷いさを巻いさと云くはる事ハ近代の事也
 本火土金水色ハ赤いさ
 一 但黒いさと云くはる事ハ近代の事也

一 弓矢名記引目名亦乃馬



引目

一 大進お見鏡いさあるもの引目の事いさと云くはる事ハ近代の事也
 又云大進お見鏡いさあるもの引目の事いさと云くはる事ハ近代の事也

一 又云大進お見鏡いさあるもの引目の事いさと云くはる事ハ近代の事也
 又云大進お見鏡いさあるもの引目の事いさと云くはる事ハ近代の事也

一 又云大進お見鏡いさあるもの引目の事いさと云くはる事ハ近代の事也
 又云大進お見鏡いさあるもの引目の事いさと云くはる事ハ近代の事也

世に不足也

引目

ツク目

一 大遠物鏡見條云々ある引目と云々大犬ありて鳴りてはをこゝりの引目
 云々矢のよきと云々ありてはをこゝりの引目と云々大犬ありて鳴りてはをこゝりの引目
 大遠物鏡見條云々ある引目と云々大犬ありて鳴りてはをこゝりの引目
 引目と云々ある引目と云々大犬ありて鳴りてはをこゝりの引目
 遠物鏡見條云々ある引目と云々大犬ありて鳴りてはをこゝりの引目
 遠物鏡見條云々ある引目と云々大犬ありて鳴りてはをこゝりの引目
 遠物鏡見條云々ある引目と云々大犬ありて鳴りてはをこゝりの引目

〇

遠物鏡見條
 引目 射所松邊抄云々鏡引目も根本ハ云々ありてはをこゝりの引目
 代り今乃鏡引目と云々ありてはをこゝりの引目

- 一 射所持長親云引目の目々つみめを云々ありてはをこゝりの引目
- 一 根本ハ云々ありてはをこゝりの引目
- 一 云々鏡引目と云々ありてはをこゝりの引目
- 一 云々鏡引目と云々ありてはをこゝりの引目
- 一 扇鏡云々鏡引目の目々つみめを云々ありてはをこゝりの引目
- 一 射鏡云々鏡引目の目々つみめを云々ありてはをこゝりの引目

笠引目

一 又云引目の袋可入桐のらん手皮ひりん葉抄砂是本人ハ甲斐國草
 あんと可用又云引目の鏡を云々ありてはをこゝりの引目

何半海西が弼あるの射(すゝた)にまさる常の人(あまのひと)をばたてて之射
因(よ)つて略(りやく)の(た)る(る)若(わか)き(き)に(た)る(る)成(なり)に(た)る(る)す(す)大(おほ)の(の)射(す)も(も)同(おな)じ

○

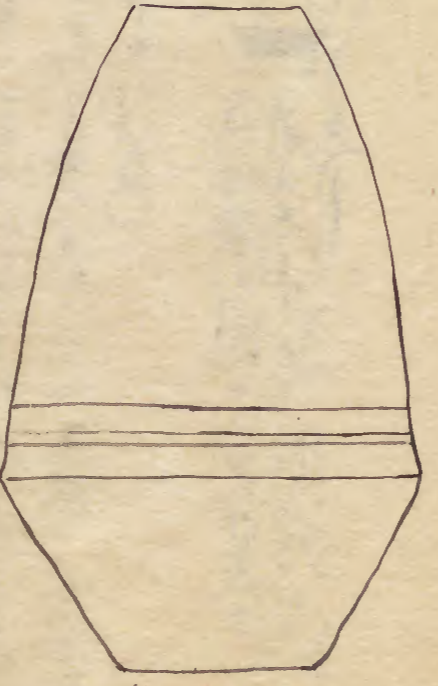
一 小笠ふり目射所拾遺抄(す)す目小笠敷(く)を射(す) 長(なが)き(き)目九(こ)或(た)り
七(なな)と(と)あり(り)と(と)下(した)を(を)ら(ら)し(し)と(と)を(を)ら(ら)し(し)と(と)わ(わ)か(か)ら(ら)ぬ(ぬ)は(は)り(り)矢(や)より(り)所(す)を
け(け)つ(つ)た(た)ら(ら)し(し)と(と)す(す)は(は)り(り)さ(さ)ら(ら)に(に)種(ね)ふ(ふ)ら(ら)に(に)の(の)や(や)一(いつ)羽(う)は(は)り(り)或(た)り(り)唐(た)の
羽(う)は(は)り(り)一(いつ)色(いろ)系(けい)を(を)ら(ら)し(し)う(う)り(り)と(と)す(す)も(も)若(わか)き(き)も(も)又(また)あ(あ)ら(ら)け(け)て(て)射(す)る(る)
~~~~~か(か)ら(ら)し(し)と(と)す(す)も(も)若(わか)き(き)の(の)こ(こ)ろ(ろ)に(に)~~~~~

一 射所持長元小笠ふり目射所目同(と)ら(ら)し(し)に(に)長(なが)き(き)目九(こ)或(た)り(り)七(なな)と(と)あり(り)と(と)卷(ま)く  
て(て)ま(ま)た(た)ら(ら)し(し)と(と)を(を)ら(ら)し(し)と(と)わ(わ)か(か)ら(ら)ぬ(ぬ)は(は)り(り)矢(や)より(り)所(す)を  
け(け)つ(つ)た(た)ら(ら)し(し)と(と)す(す)は(は)り(り)さ(さ)ら(ら)に(に)種(ね)ふ(ふ)ら(ら)に(に)の(の)や(や)一(いつ)羽(う)は(は)り(り)或(た)り(り)唐(た)の  
羽(う)は(は)り(り)一(いつ)色(いろ)系(けい)を(を)ら(ら)し(し)う(う)り(り)と(と)す(す)も(も)若(わか)き(き)も(も)又(また)あ(あ)ら(ら)け(け)て(て)射(す)る(る)  
~~~~~か(か)ら(ら)し(し)と(と)す(す)も(も)若(わか)き(き)の(の)こ(こ)ろ(ろ)に(に)~~~~~

一 忠(ちゆう)國(こく)言(ごん)ふ(ふ)小(こ)笠(さ)敷(し)敷(し)の(の)矢(や)の(の)あ(あ)ら(ら)に(に)種(ね)の(の)や(や)一(いつ)羽(う)は(は)り(り)或(た)り(り)唐(た)の
羽(う)は(は)り(り)一(いつ)色(いろ)系(けい)を(を)ら(ら)し(し)う(う)り(り)と(と)す(す)も(も)若(わか)き(き)も(も)又(また)あ(あ)ら(ら)け(け)て(て)射(す)る(る)
~~~~~か(か)ら(ら)し(し)と(と)す(す)も(も)若(わか)き(き)の(の)こ(こ)ろ(ろ)に(に)~~~~~

小笠引目

一 一箇目九つぬり又五つぬり  
 一 一箇目九つぬり又五つぬり  
 一 一箇目九つぬり又五つぬり  
 一 一箇目九つぬり又五つぬり  
 一 一箇目九つぬり又五つぬり  
 一 一箇目九つぬり又五つぬり  
 一 一箇目九つぬり又五つぬり  
 一 一箇目九つぬり又五つぬり  
 一 一箇目九つぬり又五つぬり  
 一 一箇目九つぬり又五つぬり  
 一 一箇目九つぬり又五つぬり



目アルヘシ  
本書ニカ  
キヲトシ  
ナリ

一 笠無日記云昔ハ小笠敷乃  
 二 西とカ切入て昔と云と  
 糸の元えぬやまぬあり

一 狩<sup>方</sup> 書云小笠敷乃云昔ハ小笠敷乃  
 二 昔ハ大狩目あり赤<sup>紅</sup>色<sup>ニ</sup>ニあり  
 三 昔ハ大狩目あり赤<sup>紅</sup>色<sup>ニ</sup>ニあり  
 四 昔ハ大狩目あり赤<sup>紅</sup>色<sup>ニ</sup>ニあり  
 五 昔ハ大狩目あり赤<sup>紅</sup>色<sup>ニ</sup>ニあり  
 六 昔ハ大狩目あり赤<sup>紅</sup>色<sup>ニ</sup>ニあり  
 七 昔ハ大狩目あり赤<sup>紅</sup>色<sup>ニ</sup>ニあり  
 八 昔ハ大狩目あり赤<sup>紅</sup>色<sup>ニ</sup>ニあり  
 九 昔ハ大狩目あり赤<sup>紅</sup>色<sup>ニ</sup>ニあり  
 十 昔ハ大狩目あり赤<sup>紅</sup>色<sup>ニ</sup>ニあり

他も同しも若くは手返り小笠越の目もあつたしよりの事なり

一 法量物異ち小笠越目にかつあるて七日の目も一尺九寸七寸の目も一尺九寸

一 弓法私書小笠越乃目かしの半管かしの竹を割らずてありてあり

一 弓法私書小笠越乃目かしの半管かしの竹を割らずてありてあり

一 弓法私書小笠越乃目かしの半管かしの竹を割らずてありてあり

一 弓法私書小笠越乃目かしの半管かしの竹を割らずてありてあり

一 弓法私書小笠越乃目かしの半管かしの竹を割らずてありてあり

一 弓法私書小笠越乃目かしの半管かしの竹を割らずてありてあり

一 弓法私書小笠越乃目かしの半管かしの竹を割らずてありてあり

一 弓法私書小笠越乃目かしの半管かしの竹を割らずてありてあり

弓法私書  
小笠越目も



小笠越目之コシラハ振是モ  
前より年々大くはあり

一 八廻日記口傳小笠越の如く好くをぬりかきふてをぎをよとせり



○

一 木棒キボウ

負丈云棒ノ字或ハ鋒ノ字ヲ用レハ非也キボウハ鉄ヲヒテ打テ形ヲクシテ木ノ棒ノ如シ物ヲ射碎リ根也鉄神頭ノ類也是ヲ四角ニシタルヲ定角ト云或ハ木棒ヲ青木ナトニテケツリタルモアリ畧也又木ワリト云モアリ鉄神頭ノ如クニシテサキヲトカセタル也是楢板又舟バラナトヲ割ル根ナリ角ニテ作タルヲ角木ト云角ノ木ワリト云キナリ是等式正ノ物ニアラヌ雜器ナリ

一

諸書尚用抄云キボウをサヒキボウト云ルアリキボウニハ向テミチヨリ

一

書札キボウ雜ノ用書云小者よこしはしと云も亦も又ナモさすべしあめ

一

弓弦私書云キボウのよき矢はとす板の二二三又七九十五ナリ一四ハ

一

矢既回果とすわたり

一

忠厚書云キボウつがれよきとす



○一 矢羽 射所捨遺抄三羽乃すやうふ大将の負征矢よ用へー平民ハ射  
破ありー自又羽ふくろや山まれ尾ならやのと或きやありー二羽と  
魔障を退くる付け羽を用之又云標の羽ハ的矢よ付くも略費ハ大射  
りかきよませこきよふくろもくろくすん 自又云矢の羽ハ標の羽ハ一ハ  
後コの羽のハあり  
一 三立四立 射所捨遺抄云三立の羽の各れ幸ちー一四羽也なりとがけ  
是ハ四立ハ一ありありー一ハ中の羽も又羽の羽ハ一ハ一ハがけ  
と紙ハ一ハ一ハ一ハ

一 馬匠羽 射所捨遺抄云三立は羽の幸男也ハ可用入道或ハ強正少将也  
自又云矢の羽ハ標の羽ハ一ハ後コの羽のハあり  
又云三立ハ一ハ一ハ一ハ

一 射所持長記云三立の羽の各走羽予すりとゆきあり

一 又云物くろの羽と何れ也ハ一ハ一ハ一ハあり

一 馬匠記云矢よがぬ羽のハ一ハ一ハ一ハあり

**矢羽** 尾羽を離て去ははさきハ尾を離てははさきハ尾を離てははさきハ

矢ハ一ハ一ハ一ハあり



二ノ目 合れしと云ふ

一 又云常の御後ノ羽一鹿と一鳥と御後ノ鳥人ノ交々云々

一 鹿ノ羽（鹿ノ羽）

一 又云羽の如き方をむすむと云ふも又乃の如しと云ふ

一 又云ゆくゆく羽と云ふ矢と云ふ鳥と云ふ人ノ御後ノ羽ノ矢と云ふ

一 圖の御書云々の羽の字ノ公方御の御の御と云ふ羽（御の御）

一 又云昔の御の御何れも御（御の御）

一 又云羽の白の如く云々の御の御（御の御）

一 又云的矢の羽の中（中）

一 又云用ふる御（御）

一 又云的矢の羽（羽）

一 扇渡云羽（扇渡云羽）

一 又云御の羽（御の羽）

一 又云羽の次（次）

スレキ

一 犬遊御方御書云々の犬遊御の御（御の御）

一 又云之を合れ御（御）

一 又云之と云ふ御（御）

一 又云之と云ふ御（御）

一 弓馬在云云常ノ人の見ノ合（合）

一 又云之と云ふ御（御）

サバ

サウクノ羽

二ノ目



付事ハ略叙シ大射引目の...

一弓法私書云云色を...

一又云羽二色ありて...

一又云子せりて...

一又云矢乃羽長ハ何...

一長ク引目ハ...

一又云三三の羽の何...

一付事ハ...

一弓法私書云云...

一羽を...

一云々...

一...

一...

一...

一...

一...

一...

一...

一...

一...

一...

一...

一...

一...

一...

一...

一...

一...

一...

一...

一...

一...

一...

一...

一...

一...

一...

一...

一...

一...

一...

一...

一...

〇

一 篋乃年

村所拾遺抄云考此物の... 篋乃年の... 篋乃年の...

一 又云同は... 篋乃年の... 篋乃年の...

一 又云... 篋乃年の... 篋乃年の...

一 又云... 篋乃年の... 篋乃年の...

一 又云... 篋乃年の... 篋乃年の...

一 又云... 篋乃年の... 篋乃年の...

一 又云... 篋乃年の... 篋乃年の...

一 又云... 篋乃年の... 篋乃年の...

一 又云... 篋乃年の... 篋乃年の...

一 又云... 篋乃年の... 篋乃年の...

一 又云... 篋乃年の... 篋乃年の...

一 又云... 篋乃年の... 篋乃年の...

一 又云... 篋乃年の... 篋乃年の...

一 又云... 篋乃年の... 篋乃年の...

一 又云... 篋乃年の... 篋乃年の...

一 又云... 篋乃年の... 篋乃年の...

一 又云... 篋乃年の... 篋乃年の...

一 又云... 篋乃年の... 篋乃年の...

篋

一 又云... 篋乃年の... 篋乃年の...







と云ふ事ありしに、  
射千方圖書云夫の節を正し、  
射千方圖書云夫の節を正し、  
射千方圖書云夫の節を正し、  
射千方圖書云夫の節を正し、

一 射千方圖書云夫の節を正し、  
射千方圖書云夫の節を正し、  
射千方圖書云夫の節を正し、  
射千方圖書云夫の節を正し、

一 射千方圖書云夫の節を正し、  
射千方圖書云夫の節を正し、  
射千方圖書云夫の節を正し、  
射千方圖書云夫の節を正し、

一 射千方圖書云夫の節を正し、  
射千方圖書云夫の節を正し、  
射千方圖書云夫の節を正し、  
射千方圖書云夫の節を正し、

一 射千方圖書云夫の節を正し、  
射千方圖書云夫の節を正し、  
射千方圖書云夫の節を正し、  
射千方圖書云夫の節を正し、

一 射千方圖書云夫の節を正し、  
射千方圖書云夫の節を正し、  
射千方圖書云夫の節を正し、  
射千方圖書云夫の節を正し、

一 射千方圖書云夫の節を正し、  
射千方圖書云夫の節を正し、  
射千方圖書云夫の節を正し、  
射千方圖書云夫の節を正し、

一 射千方圖書云夫の節を正し、  
射千方圖書云夫の節を正し、  
射千方圖書云夫の節を正し、  
射千方圖書云夫の節を正し、

一 射千方圖書云夫の節を正し、  
射千方圖書云夫の節を正し、  
射千方圖書云夫の節を正し、  
射千方圖書云夫の節を正し、

と云ふ事ありしに、  
射千方圖書云夫の節を正し、  
射千方圖書云夫の節を正し、  
射千方圖書云夫の節を正し、  
射千方圖書云夫の節を正し、

○

一 夫を記 高忠少書云らばはげ乃半的夫笠懸がら大射がら  
是を記 梳とぎの夫らるる何とらばはを記して可射る而雷賊本  
あらば可射たあらる糸のたと何とを記するらるる一やせぬらるる  
ぬらるる一を記射るるあまらるる

一 扇鏡云白篋の物あらるらる一やせ羽を射る

一 上賢抄云夫ら羽を射る糸管と節とのあちら夫あらる一それらるる  
を記は羽を射る

一 用害記云かを射るらる一を記は羽を射る 貞丈云まのこの本の上のあは  
とらるるは羽を射るその下はあは皮  
ありわらるるこれをわらるる一紙の  
白とらるるのあま皮をわらるる  
白とらるるのあま皮をわらるる

一 八廻日記は傳云糸の糸を巻く矢は半公方極伊矢自御糸糸を  
させらるる射必は糸を糸を平人の糸糸を糸の射むらるるの糸を  
射る

一 大永開書云 管長 管卷 貞丈云上ハギノ長サハ  
若ガケニツ長サニ  
也 上ハギノ管卷ニツ貞丈云管長管卷ニト上ハ  
アル同ニ同サヲ二夜ニタル也 けらるるハ管乃ひろき半か

貞丈云本ハキノ長サハ  
管長ノニツ管ニスル也 是ハハのやれと ちひ征矢の半らるるのらるる 神既同  
半也 但かづらるる 神既ハ夫よりして足能既あらる一い分まで

矢ハキ

ハあまの長うまの的矢筈也乃如のいけりる筈巻れはるの筈巻  
乃ひちり三分也但三分は倍なる三分とい筈巻の筈まをりをもと  
りてその三分一を筈巻の長サとするは是を三分と云

○

一 矢筈 思本記云ツキ筈のあ乃半大射がう筈也かう小筈也のうう四角  
乃うう常のともいし四角のううも終へ又一白ぶんざり又こーさこれ  
ぶんざり常よりすくー的乃矢代ぶんざりまづがうかぶるれう的  
矢あどいこみくはぐべー

一 思本記云云 征矢のううら矢筈はあひをぬべー箆をすはよす下略  
又云とより矢ううら矢のううらむをぬべー下略

一 射抄拾遺抄云ううら矢のううらむをぬべー中略をすはよす下略  
一 思本記云云ううら矢のううらむをぬべー中略をすはよす下略

一 思本記云云 征矢の形例式よりさる也 筈さる征矢の如くううら常  
のううら矢はううらむ貞丈云射抄拾遺抄よりううら矢のううらむはううらむとありぬ  
と藤の角のううらむはううらむとありぬ

一 思本記云云 征矢の形例式よりさる也 筈さる征矢の如くううら常  
のううら矢はううらむ貞丈云射抄拾遺抄よりううら矢のううらむはううらむとありぬ  
と藤の角のううらむはううらむとありぬ

矢筈

一 思本記云云 征矢の形例式よりさる也 筈さる征矢の如くううら常  
のううら矢はううらむ貞丈云射抄拾遺抄よりううら矢のううらむはううらむとありぬ  
と藤の角のううらむはううらむとありぬ

一 射師持長記云一在四角 箭ハ角少てもす也 貞丈云角ニテ箭を射るハ其の角ハ箭あり 庶角をゆへて云ハ庶角の角の角を射

一 弓法私書云法ハ箭を射るハ其の角ハ箭あり 貞丈云角ニテ箭を射るハ其の角ハ箭あり 庶角をゆへて云ハ庶角の角の角を射

一 又云射ハ其の角ハ箭あり 貞丈云角ニテ箭を射るハ其の角ハ箭あり 庶角をゆへて云ハ庶角の角の角を射

一 又云射ハ其の角ハ箭あり 貞丈云角ニテ箭を射るハ其の角ハ箭あり 庶角をゆへて云ハ庶角の角の角を射

一 又云射ハ其の角ハ箭あり 貞丈云角ニテ箭を射るハ其の角ハ箭あり 庶角をゆへて云ハ庶角の角の角を射

一 又云射ハ其の角ハ箭あり 貞丈云角ニテ箭を射るハ其の角ハ箭あり 庶角をゆへて云ハ庶角の角の角を射

一 又云射ハ其の角ハ箭あり 貞丈云角ニテ箭を射るハ其の角ハ箭あり 庶角をゆへて云ハ庶角の角の角を射

一 又云射ハ其の角ハ箭あり 貞丈云角ニテ箭を射るハ其の角ハ箭あり 庶角をゆへて云ハ庶角の角の角を射

一 又云射ハ其の角ハ箭あり 貞丈云角ニテ箭を射るハ其の角ハ箭あり 庶角をゆへて云ハ庶角の角の角を射

○ 一 矢ハ 射師持長記云矢ハ羽中ニ書ハ 大射云 征矢ありハ羽中

一 射師持長記云征矢ハ羽中ニ書ハ 大射云 征矢ありハ羽中

一 射師持長記云征矢ハ羽中ニ書ハ 大射云 征矢ありハ羽中

一 射師持長記云征矢ハ羽中ニ書ハ 大射云 征矢ありハ羽中

一 射師持長記云征矢ハ羽中ニ書ハ 大射云 征矢ありハ羽中

一 射師持長記云征矢ハ羽中ニ書ハ 大射云 征矢ありハ羽中

一 射師持長記云征矢ハ羽中ニ書ハ 大射云 征矢ありハ羽中

一 射師持長記云征矢ハ羽中ニ書ハ 大射云 征矢ありハ羽中

一 射師持長記云征矢ハ羽中ニ書ハ 大射云 征矢ありハ羽中

矢下



一 圖的圖書云九おる麻矢おのりひやうとて

一 矢けんちりまおを射くひやうは射てまこるひやう

一 又まわらぬまおを射くひやうは射てまこるひやう

一 又まわらぬまおを射くひやうは射てまこるひやう

一 又まわらぬまおを射くひやうは射てまこるひやう

一 又まわらぬまおを射くひやうは射てまこるひやう

一 又まわらぬまおを射くひやうは射てまこるひやう

一 又まわらぬまおを射くひやうは射てまこるひやう

一 又まわらぬまおを射くひやうは射てまこるひやう

一 又まわらぬまおを射くひやうは射てまこるひやう

一 又まわらぬまおを射くひやうは射てまこるひやう

一 又まわらぬまおを射くひやうは射てまこるひやう

一 又まわらぬまおを射くひやうは射てまこるひやう

一 又まわらぬまおを射くひやうは射てまこるひやう

一 又まわらぬまおを射くひやうは射てまこるひやう

一 又まわらぬまおを射くひやうは射てまこるひやう

一 又まわらぬまおを射くひやうは射てまこるひやう

一 又まわらぬまおを射くひやうは射てまこるひやう

一 又まわらぬまおを射くひやうは射てまこるひやう

四目少射一矢音ハ何も同也

法

一 言忠史書別記云ひやうとていふに鳥羽の矢音あり

一 又云とんぞれ矢音ひさしとていふは是は神矢音なり

一 又云ゆいさしとていふは鳥羽の矢音なり

一 又云矢音のひさしとていふは鳥羽の矢音なり

一 又云小笠原の矢音ひさしとていふは

一 又云ゆいさしとていふは鳥羽の矢音なり

一 又云ゆいさしとていふは鳥羽の矢音なり

一 又云ゆいさしとていふは鳥羽の矢音なり

一 笠原日記云笠原の矢音は鳥羽の矢音なり

一 小笠原日記云鳥羽の矢音は鳥羽の矢音なり

一 弓馬故実云がら矢乃矢音乃事むいさしとていふは

一 又云ゆいさしとていふは鳥羽の矢音なり

一 又云ゆいさしとていふは鳥羽の矢音なり

一 又云四目の矢音のひさしとていふは

一 又云ゆいさしとていふは鳥羽の矢音なり

ていふこと

一 又云ゆいさしとていふは鳥羽の矢音なり

一 又云ゆいさしとていふは鳥羽の矢音なり

一 又云ゆいさしとていふは鳥羽の矢音なり

一 又云ゆいさしとていふは鳥羽の矢音なり

一 又云ゆいさしとていふは鳥羽の矢音なり

一 又云ゆいさしとていふは鳥羽の矢音なり

一 又云ゆいさしとていふは鳥羽の矢音なり

一 又云ゆいさしとていふは鳥羽の矢音なり

一 又云ゆいさしとていふは鳥羽の矢音なり

一 弓馬聞書云矢音乃事かあ矢音は鳥羽の矢音なり

一 又云ゆいさしとていふは鳥羽の矢音なり

一 又云ゆいさしとていふは鳥羽の矢音なり

一 又云ゆいさしとていふは鳥羽の矢音なり

一 又云ゆいさしとていふは鳥羽の矢音なり

一 諸書尚用抄云は鳥羽の矢音は鳥羽の矢音なり





